TO－305

取　扱　説　明　書

作業用救命衣

（小型船舶用救命胴衣の要件に適合するもの）（膨脹式）

ＷＰ－１

国土交通省型式承認番号 第 4537 号

制　定：平成 14 年 12 月 25 日
改　訂：平成 21 年 10 月 22 日

藤倉航装株式会社
東京都品川区荏原２丁目４番４６号
ＴＥＬ　03－3785－2108
（お問い合わせ窓口　営業部）

目　　次

１．安全に関する注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２．概要及び構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
（１）概要
（２）適用サイズ
（３）構造
（４）主要部品

３．使用方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
（１）着用方法
（２）作動方法
（３）安定した浮遊姿勢を得るために

４．点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
（１）自主点検
（２）定期点検

５．整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
（１）着用後の整備
（２）膨脹後の整備
（３）折りたたみ方法

６．保管方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

７．交換の目安・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

別紙１　定期点検項目
別紙２　気密試験要領

１．安全に関する注意事項

この取扱説明書は，作業用救命衣（小型船舶用救命胴衣の要件に適合するもの）（膨脹式）ＷＰ－１（以下「救命衣」という。）を安全にご使用していただくために必ずお読み下さい。また，この取扱説明書は，いつでも読めるよう大切に保管して下さい。

取扱説明書で使われるマークは次の状況を意味します。

⚠危険	取扱いを誤った場合に使用者が死亡，または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。
⚠警告	取扱いを誤った場合に使用者が死亡，または重傷を負う可能性が想定される場合。
⚠注意	取扱いを誤った場合に使用者が傷害を負う危険性が想定される場合及び物的損害のみの発生が予想される場合。

⚠危険

① 膨脹装置を作動させた場合は使用しないで下さい。

膨脹装置を一度作動させると，炭酸ガスボンベ内のガスがなくなり再使用できません。この場合には，最寄の販売店を通じて当社指定の炭酸ガスボンベとスプールを購入し，交換して下さい。（指定交換部品に付属している交換要領書に従って交換して下さい。）

② この救命衣は意識のある人を対象としており，着水膨脹後に調整が必要です。

この救命衣は，安定した浮遊姿勢を得るために，浮遊中においてベルト長さの調節や，若干の浮遊姿勢の修正を必要とします。

③ 購入した後，ご自身で改造，修理を絶対にしないで下さい。（アイロンプリント，刺繍，ワッペン等の縫い付け等）

気室を傷つけ，救命衣が膨脹しない恐れがあります。

④ 必ず，この取扱説明書に従って正しく使用して下さい。

⚠警告

① 救命衣を使用する前に補助送気装置から空気を注入しないで下さい。

救命衣を使用する前に補助送気装置から空気の注入を行うと，膨脹装置が作動したとき，救命衣の気室内圧が過大になり気室が破損して使用できなくなります。

② 突起物，鋭利な物（ブローチ，ボールペン，ネクタイピン等）は救命衣着用前に取り外して下さい。

気室を傷つけ救命衣が膨脹しない恐れがあります。

③ 救命衣は衣服等の一番上に着用して下さい。

衣服又は雨衣の下に着用しますと，水の侵入が遅くなり，膨脹装置が作動しない恐れがあります。また，救命衣の上に服を着用すると，気室の膨脹を妨げ，正常な状態で膨脹しません。

④ 救命衣の取扱い時は火気厳禁にして下さい。

気室は，ポリウレタン加工した引布で作られていますので，火気を近づけると穴があき，救命衣が膨脹しません。

⑤ **適用サイズ以外の人は着用しないで下さい。**

この救命衣は，腰まわりの寸法７５～１０５ｃｍに適応し，手動により膨脹装置を作動させることのできる成人に適用します。

⚠注意

① **この救命衣は，救命用ですので，他の用途に使用しないで下さい。**

② **１年間に１回，定期的な点検を，販売店を通じてサービスステーションまたは当社（表紙連絡先）に依頼して行って下さい。**

③ **着用する前に，救命衣が膨らんでいないことを確認して下さい。**

救命衣が膨らんでいるときは，ボンベ内のガスが漏れていてそのまま使用すると，救命衣が膨脹しない恐れがあります。この場合，必ず膨脹装置からボンベを外しボンベの封板に穴が開いていないかどうかを確認して下さい。

④ **着用する前に，膨脹装置に割れ等の破損がないことを確認して下さい。**

膨脹装置に強い衝撃を与えると，膨脹装置が割れる恐れがあります。

⑤ **着用する前に，バックルが壊れていないか，腰ベルトが切れていないかを確認して下さい。**

落水したとき，救命衣が身体から離れる恐れがあります。

⑥ **時間的に余裕がある場合は，救命衣を膨脹させた状態で水中に飛び込んで下さい。**

船が沈み始めて脱出する場合等において，救命衣を手動で膨脹させることのできる時間的余裕のある場合は，水中に飛び込む前に救命衣を手動で膨脹させて下さい。水中に飛び込む際は，膨脹した救命衣を両手でしっかりと身体に抱きかかえて下さい。
ただし，飛び込み高さは３m以下として下さい。

⑦ **この救命衣の膨脹装置は，自動膨脹方式となっていますが，この機能はあくまで補助的なものです。着水後は，作動索を引いて救命衣を膨脹させて下さい。**

⑧ **水中に浮遊している場合，救命衣を損傷する恐れのある浮遊物には近づかないで下さい。**

気室を傷つけガス漏れが発生し，浮力を失う恐れがあります。

⑨ **救命衣を単独で運搬移動する場合には，規定された方法で折りたたんで運搬移動して下さい。また，荷物の下に置かないで下さい。**

破損・劣化の原因になります。

⑩ **保管場所は，直射日光があたる場所や，高温多湿の場所を避けて下さい。**

特に車の中に保管する場合，直射日光があたったり，高温多湿になることがあります。保管場所には十分注意して下さい。

⑪ **救命衣を雨の中で着用した場合は，十分に乾燥させてから保管して下さい。**

2．概要及び構造

（1）概　要

この救命衣は，船外作業，港湾工事や海岸工事の作業など水中に転落する恐れのある作業時に常時着用する膨脹式救命衣で，手動索を引くことにより救命衣が膨脹し，着用者（転落者）を水面上に浮遊させるものです。

または，小型船舶を操縦，同乗する時に着用し，水中へ転落したときに備えます。

膨脹装置は，水感知機能付きで着水時に水を感知すると自動的に膨脹させる仕組みとなっておりますが，この機能はあくまで補助的なものになります。

この救命衣は，国土交通省の船舶設備規程に規定する作業用救命衣，及び小型船舶安全規則に規定する小型船舶用救命胴衣の型式承認基準に適合したものです。

（2）適用サイズ

この救命衣は，腰まわりの寸法 75～105ｃｍで，手動により膨脹装置を作動させることのできる成人に適用します。

（3）構　造

この救命衣は，通常はウエストポーチに収納されています（図－１）。このウエストポーチを腰にセットした状態で作動索を引くと，ウエストポーチから気室が飛び出し（図－２，図－３），身体の周り（腰あるいは脇の周り）で膨脹し，着用者を水面上に浮遊させることができます。

この救命衣の主な仕様は次のとおりです。

1. 気室は，ナイロン布にポリウレタン加工した引布でつくられ，膨脹した気室は，7．5kg（国土交通省の型式承認試験基準値）以上の浮力を持っています。
2. 自動又は，手動で膨脹できます。
3. 海上で発見しやすいように救命衣の気室の色は，オレンジまたは黄色の 2 種類となっています。
4. 夜間でも発見しやすいように，再帰反射材（反射テープ）が貼り付けてあります。
5. 救命用の呼笛が備え付けてあります。
6. 気室はウエストポーチに収納されています。このウエストポーチは，収納時における気室の破れ，汚れ等を保護するようになっています。

1）気室収納状態（ウエストポーチ）

図－１

2）気室膨脹状態

図－２

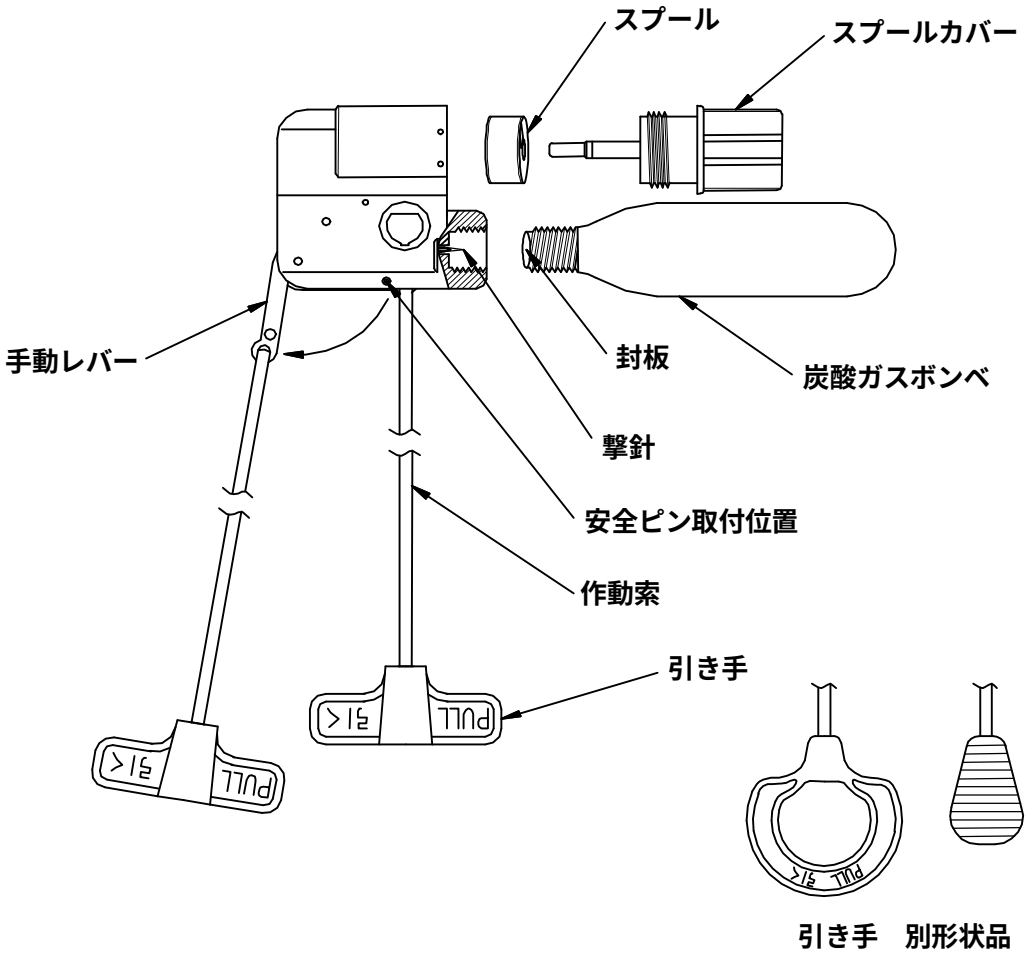
図－３

（4）主要部品

1）膨脹装置

この装置は，自動膨脹用のスプール，スプールカバー，手動レバー，撃針，作動索及び引き手から構成されています。（構造を図－4に示す。）

この装置は，水没すると，スプールが溶解することによって，自動的に撃針を押し上げて，炭酸ガスボンベの封板を破りボンベ内の炭酸ガスを気室内へ送気する構造になっています。また，作動索を手で引くことにより手動レバーに連動している撃針を押し上げて自動膨脹時と同様に膨脹させることができます。



図－4　膨脹装置図

⚠危険

サービスステーションまたは当社で行う点検，修理あるいは部品交換以外には膨脹装置は取り外さないで下さい。炭酸ガスが漏れて気室が膨脹しない危険性が有ります。

２）補助送気装置

この送気装置は，気温や水温の変化により気室の内圧が低下し十分な浮力が得られなくなった時，気室に空気を補充するために使用するものです。

また，空気を気室から排気するときにも使用します。

・空気の補充

空気を補充する時は，まずキャップをはずし，図－５のように送気装置の先を直接口でくわえ，息を吹き込むことによって送気装置内のバルブを押し下げて空気を気室へ補充します。

⚠注意

空気の補充後は必ずキャップをして下さい。

キャップをすることにより，気室内への水の流入や，ゴミの付着を防ぐことができます。

・空気の排気

空気を排気する時は，図－６のようにキャップについてある突起を送気装置の先に突きさし，バルブを押し下げて空気を気室から排気します。

⚠注意

気室を膨脹させた後は，気室内の空気を完全に排気して下さい。

空気が気室に残っていると，再度，炭酸ガスで膨脹させた時，気室内の圧力が過大になり，気室が破裂する恐れがあります。

図－５　空気補充方法

図－６　空気排気方法

３）腰ベルト

腰ベルトは，救命衣を着用した後，長さの調整ができるようになっており，図－10のように腰ベルトの端末を引っ張ることによって締め付けることができます。

なお，腰ベルトは救命衣の左右気室に取り付けてあります。

3．使用方法

（1）着用方法

1）ウエストポーチのセット

⚠警告

突起物，鋭利な物（ブローチ，ボールペン，ネクタイピン等）は，救命衣を着用する前に必ず取り外して下さい。

気室を傷つけ救命衣が膨脹しない恐れがあります。

図-７のように，ウエストポーチを腰骨のあたりで，腰の後ろにセットします。その際，必ずウエストポーチ記載の矢印の向きを確認し，ラッセルメッシュの面（裏面）が腰に当たる様に装着して下さい。

2）バックルのセットとベルトの調整

① バックルを図－８の矢印（A）の方向に差し込んでセットして下さい。
バックルを外す時は図－9 の矢印（B）を強く押すとバックルは左右に離れます。

② バックルをセットした後，腰ベルトの端末を図－10 のように両側に引っ張って，ウエストポーチが腰の周りに密着するように調整して下さい。このとき,腰ベルトをあまり強く引き過ぎると,気室がウエストポーチから飛び出す恐れがあるので，注意して下さい。気室が飛び出した場合は，必ず正しい折りたたみ方法に従って折りたたみ直して下さい。

ウエストポーチを腰にセットする前にあらかじめ腰ベルトを腰周りの長さに調整し，あとはバックルをセットするだけにしておくと容易に着用できます。

③ 腰ベルトの両側の端末は「垂れ下がり」のないように端末をゴムベルトに通しておいて下さい。

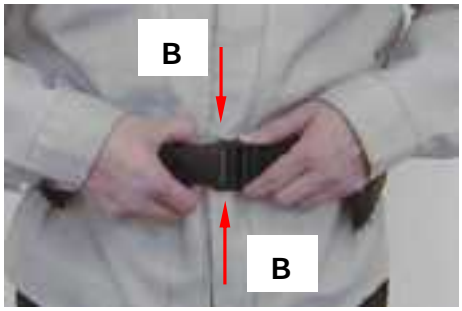
⚠注意

ウエストポーチは必ず腰骨のあたりで，腰の後ろにセットして下さい。
ウエストポーチを間違って腰の前にセットしたり，上下，表裏を間違えて着用すると，膨脹しづらかったり，安定した浮遊姿勢を得ることができません。

ウエストポーチは，ふたのある面を表にして，引き手が右側にくるよう，表裏，上下を間違えないようセットして下さい。

図－７

図－８



図－９

図－10

⚠警告

ウエストポーチが腰の後ろに密着するように，腰ベルトを左右均等にしっかりと締めつけて下さい。

腰ベルトをしっかりと締めつけていないと，水中で気室が膨脹した時，身体が気室から抜け落ちることがあります。
また，腰ベルトが左右均等に締めつけられていないと，気室が膨脹していく過程において，気室が脇の下に正しく装着されないことがあります。

3）着用状態

図－11

図－12

⚠警告

救命衣は衣服等の一番上に着用して下さい。

救命衣の上に服を着用すると，気室の膨脹を妨げ，正常な状態で膨脹しません。
また，衣服又は雨衣の下に着用しますと，水の侵入が遅くなり，膨脹装置が作動しない恐れがあります。

⚠警告

着用時はいつも引き手がウエストポーチの外に出ており，手で引くことができる位置にあることを確認して下さい。

引き手がウエストポーチの中に隠れていると，作動索が引けず，膨脹させることができません。

4）着用上の注意

⚠注意

使用時はウエストポーチを正しくセットして下さい。（図－１２ａ参照）ウエストポーチが腰のまわりで動かないよう，また，ウエストポーチの後方（膨脹装置取付部分）が垂れ下がらないよう，腰ベルトをしっかりと締めつけて下さい。

図－12ｂ，12ｃのようにウエストポーチを正しくセットしていないと，雨または波しぶき等による水がウエストポーチ内部へ浸入しやすくなり，膨脹装置が作動，救命衣が膨脹する恐れがあります。

○正しいセット

図－12ａ

×誤ったセット

図－12ｃ

×誤ったセット

図－12ｂ

ウエストポーチ後方が垂れ下がっている。

（2）作動方法

この救命衣は，自動膨脹と手動膨脹の２つの方法により膨脹する構造になっています。

① 自動膨脹

水中に転落すると，ウエストポーチの内部に水が入り，更に収納されている気室に取り付けられた膨脹装置の内部に水が入ってスプールが溶解することで膨脹装置が作動し，気室内に炭酸ガスが充気されて膨脹します。

② 手動膨脹

図－13 のように，作動索を身体の前方へ強く引くことで膨脹装置が作動し，気室内に炭酸ガスが充気されて膨脹します。

図－13

救命衣は，出来る限り手動で膨脹させて下さい。

船が沈み始めて脱出する場合は,作動索を引いて救命衣を膨脹させて下さい。水中に飛び込む場合は，救命衣を両手でしっかりと抱きかかえて下さい。飛び込み高さは３m 以下として下さい。

⚠注意

この救命衣に装備された膨脹装置は，水感知機能付きで着水時に水を感知すると自動的に膨脹させる仕組みとなっておりますが，この機能はあくまで補助的なものになります。
海上に脱出する場合や，万一落水された場合は，作動索を引いて救命衣を膨脹させて下さい。

膨脹装置は，瞬間的な水没では自動膨脹しません。
膨脹させるためには，膨脹装置を５秒以上水没させる必要があります。
また，浮遊物につかまったりして膨脹装置が水没しない場合は自動膨脹しません。
水中に飛び込み後，うつ伏せで水面に出てきて浮遊してしまうなど，膨脹装置が充分に水没しなかった場合には，胴衣が膨脹しないことがあります。
このようなときは，必ず手で引き手・作動索を強く引っ張って膨脹装置を作動させて下さい。

（3）安定した浮遊姿勢を得るために

救命衣を膨脹させ, 水中において安定した浮遊姿勢を得るために次のことを行なってください。

① 最初に，膨脹した気室を身体に正しくセットして下さい。

図－14 のように膨脹した気室を脇の下に移動させ，背中が気室に密着するように気室をセットして下さい。

② 次に，ベルトを締め直します。

ウエストポーチの腰ベルトが，膨脹した状態の気室を身体に固定させるためのベルトになります。気室を身体の正しい位置にセットした後, ベルトの端末を両側に引っ張り，図－15 のように気室を身体にしっかりと固定させて下さい。

③ 最後に，後傾姿勢をとります。

図－16 のように頭を後ろにたおすことによって，顔面を水上に支持し，身体を垂直より後傾の姿勢で浮遊することができます。

図－14

図－15

図－16

４．点　検

（1）自主点検

この救命衣を安全に使用するためには，使用の都度，必ず次の点について点検し，異常がある場合は使用しないで下さい。

◎ 点検要領

1）気室及びウエストポーチに傷等の異常がないことを確認して下さい。
2）縫製部のホツレ及び糸切れのないことを確認して下さい。
3）面ファスナが外れていないことを確認して下さい。
4）ベルトに傷がないことを確認して下さい。
5）バックルが壊れていないことを確認して下さい。
6）補助送気装置が破損していないことを確認して下さい。
7）救命衣が折りたたまれた状態で気室が膨らんでいないことを確認して下さい。
8）膨脹装置の引き手がウエストポーチから表に出ていることを確認して下さい。
引き手は必ずウエストポーチの表に出した状態でご使用ください。
9）炭酸ガスボンベの封板に穴があいていないこと，また，炭酸ガスボンベが膨脹装置にしっかりとネジ込まれていることを確認して下さい。
炭酸ガスボンベのネジ込みは，ボンベの封板が膨脹装置のボンベネジ込み口の底にあるパッキンに当たってから,更に成人男子の手で 1/4～1/2 回転させ,しっかりとネジ込んで下さい。
10）膨脹装置のスプールカバーがしっかりとネジ込まれており，本体と密着していることを確認して下さい。
密着していない場合は，密着するまで確実にネジ込んで下さい。

⚠危険

上記１）から６）の異常を発見したときは，使用をやめ，直ちに販売店を通じてサービスステーションまたは当社で点検修理を受けて下さい。

装置及び部品の破損等により重大な危険を招く恐れがあります。

⚠注意

上記７）及び８）の異常を発見したときは，５項(3)に従い折りたたみをして下さい。
上記９）の異常を発見したときは，炭酸ガスボンベを交換する，又は確実にネジ込んで下さい。
上記１０）の異常を発見したときは，確実にネジ込んで下さい。

そのままの状態で使用すると救命衣が膨脹しない恐れがあります。

（2）定期点検

救命衣を購入された方は，救命衣がいつでも完全な状態で機能を果たすために，別紙 1 に示す定期点検を 1 年に 1 回必ず行って下さい。

⚠注意

１年間に１回，販売店を通じてサービスステーションまたは当社での定期点検を必ず実施して下さい。

５． 整備

（1）着用後の整備

着用した救命衣は，次の要領に従い，整備を実施して下さい。

◎ 整備要領

1）気室及びウエストポーチに傷等の異常がないことを確認して下さい。

2）縫製部のホツレ及び糸切れのないことを確認して下さい。

3）気室，ウエストポーチに汚れや塩分等が付いている場合は，膨脹装置から炭酸ガスボンベをはずさないで，膨脹装置に水が入らないようにして，真水で洗い流し日陰干しして下さい。　膨脹装置の近くに付いた汚れや塩分等については，水洗いしないで，水を浸した布等で拭き取って下さい。

4）軽い汚れが付着した場合は，ガーゼに中性洗剤を浸し，軽くたたくようにして洗浄し，真水を浸したガーゼで洗剤を取り去り，十分乾燥させて下さい。

5）洗濯機で洗ったりもみ洗いをすると，気室に亀裂が入る恐れがありますので避けて下さい。

6）アイロンがけ，ストーブ等の直接火気の近くで乾燥させると，気室が熱劣化しますので避けて下さい。

⚠注意

洗浄の際，ガソリン等の溶剤は，使用しないで下さい。又，直射日光に当てたり，電熱器・熱風で乾燥させないで下さい。

救命衣の劣化，変形の原因となります。

（2）膨脹後の整備

膨脹装置を一度作動させると，炭酸ガスボンベ内のガスがなくなり，再使用できません。

膨脹させた救命衣を再使用する場合は，最寄りの販売店を通じて当社指定の交換部品（炭酸ガスボンベとスプール）を購入し，交換して下さい。

⚠危険

膨脹装置を作動させた場合には，使用しないで下さい。

膨脹装置を作動させた場合は，炭酸ガスボンベとスプールを新しいものと必ず交換して下さい。このとき付属の安全ピンを必ず取り付けて下さい。

⚠注意

1）気室を膨脹させた後は，気室内の空気を完全に排気して下さい。

空気が気室に残っていると，再度，炭酸ガスで膨脹させた時に気室が破裂する恐れがあります。

2）炭酸ガスボンベは，膨脹装置にしっかりと締め付けて下さい。

炭酸ガスボンベが膨脹装置にしっかりと締め付けられていない場合は，作動しても炭酸ガスが漏れて気室が膨脹しません。

3）スプールを交換する時は，膨脹装置のスプール挿入部分を良く乾燥させて下さい。

スプール挿入部分に水が残っていると，スプールが溶解し膨脹装置が作動してしまいます。

（3）折りたたみ方法

⚠注意

救命衣を傷つけず安全に使用していただくために以下の方法により折りたたんで下さい。

折りたたみ方法を誤ると，気室が正常な形で膨脹しないことがあり，安定した浮遊姿勢を得ることができません。

① 図－17 のように，膨脹装置の付いている面を上にして，救命衣・気室を平らに広げてください。（このとき，救命衣の下や周囲に救命衣・気室を傷つけるようなものを置かないように注意して下さい。）

図－17

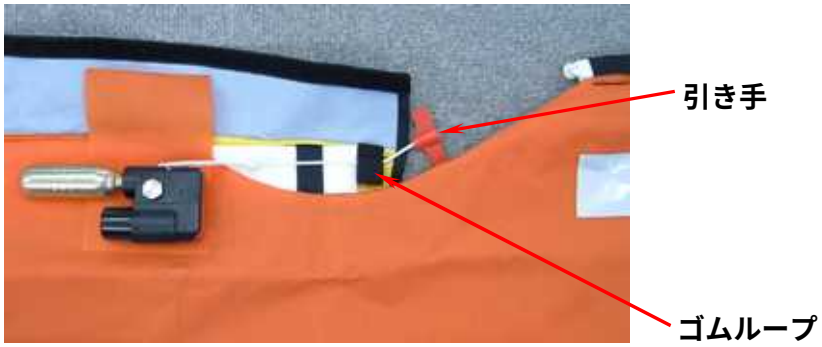
⚠危険

補助送気装置のキャップはホース先端に必ず止めて下さい。ホースに差し込んだままでは，膨脹装置が作動しても，炭酸ガスが抜けてしまい，気室が膨脹しません。

○ 正しい装着
キャップを先端に止めてある

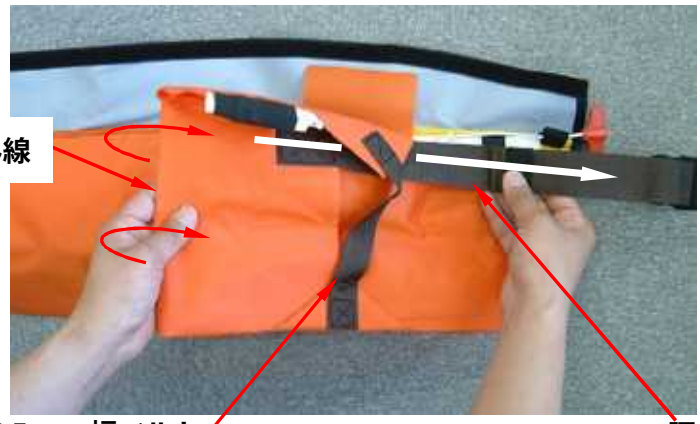
× 誤った装着
キャップを先端に挿したまま

このとき，図－18 のように，膨脹装置と作動索でつながれている引き手をウエストポーチの右上端に付いているゴムのループの中に通し，常に引き手がウエストポーチの外に出て，着用時に手で引ける位置にあるようにしておきます。



図－18

② 図－19 のように，気室の端部分を折りたたみ，腰ベルト（36㎜ 幅）を 25㎜ 幅ベルトの下に必ずくぐらせておきます。



図－19

⚠警告

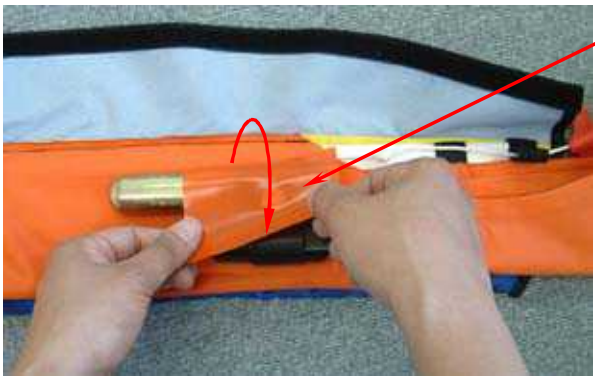
必ず腰ベルト（３６mm幅）を２５mm幅ベルトの下にくぐらせておいてください。

くぐらせないまま折りたたんでしまうと，救命衣が膨脹した時に，着用者と救命衣との密着が甘くなり，安定した浮遊姿勢を得ることができません。

③ 図－19 の形をくずさないまま，図－20 のように，ウエストポーチの大きさに合わせて気室の下側を折りたたみます。

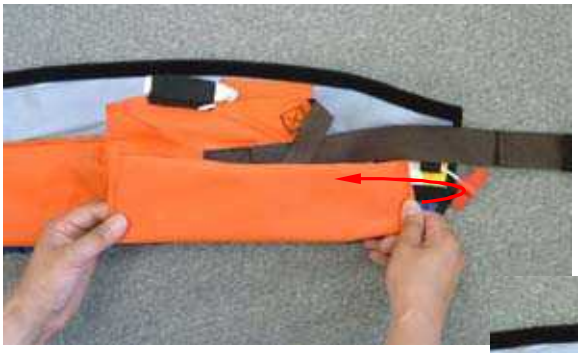
図－20

④ 図－21 のように，膨脹装置カバーで膨脹装置を包み込んでおきます。



図－21

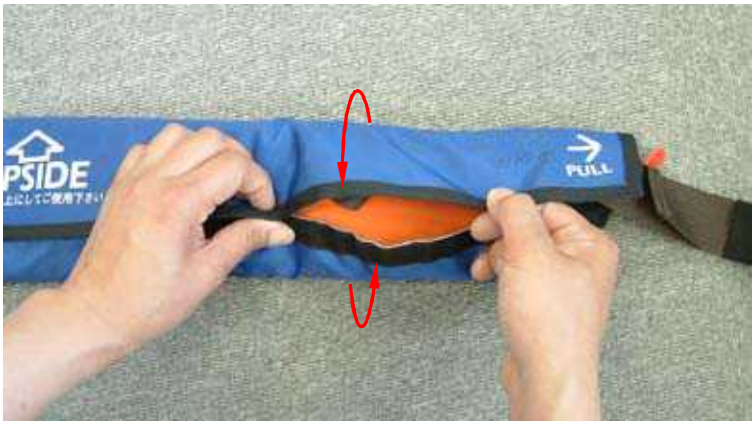
⑤　図－22 のように，ウエストポーチの大きさに合わせて気室を内側に折りたたみ，次に図－23 のように，気室の上側を折りたたみます。



図－22

図－23

⑥　図－24 のように，折りたたんだ気室をウエストポーチに収納し，面ファスナをとめていきます。



図－24

⑦　反対側の気室も同様に折りたたみ，ウエストポーチに収納します。

図－25

⑧　面ファスナは，とめ始めた位置からウエストポーチのカーブに合わせながら順にとめていくと，きれいにふたを閉じることができます。

図－26

⚠警告

折りたたみ時，引き手は必ず外に出して下さい。

引き手がウエストポーチの中に隠れていると，作動索を引くことができず，膨脹させることができません。

図－27

6．保管方法

この製品は，主要部がナイロン布をポリウレタン加工した引布でつくられているので，高温多湿，あるいは荷重のかかった状態におかれると劣化あるいは破損しやすいため，次の要領で保管して下さい。

◎ 保管要領

1）車の中など，直射日光の当たる場所や，高温多湿の場所を避けて下さい。
2）換気の良い乾燥した場所に置いてください。
3）雨漏りのする場所，蒸気の当たる場所は避けて下さい。
4）蒸気管，ラジエーター，その他暖房装置のそばなど高温の場所に置かないで下さい。
5）他のものの下積みにならないようにして下さい。
6）ネズミの害のある場所は避けて下さい。

⚠注意

保管は，高温多湿のところを避けて下さい。また，他のものの下積みにならないようにして下さい。

救命衣の劣化，破損の原因となります。

７．交換の目安

（1）救命衣本体

⚠注意

救命衣に以下のような状態が発生した場合は，新たな製品をお買い求め下さい。

1）気室が破損しているとき。
2）補助送気装置が破損しているとき。
3）ベルト及びバックルが破損しているとき。
4）ウエストポーチが破れたとき。
5）油等の汚れで表示が見えなくなったとき。
6）面ファスナ部，その他の縫製糸がほつれたり，切れたとき。

（2）炭酸ガスボンベ

⚠注意

炭酸ガスボンベは次のような場合，直ちに交換して下さい。

1）救命衣を膨脹させた場合。
2）購入後，５年を経過した場合。
3）ボンベに傷，打痕，錆，変形を生じた場合。

（3）スプール

⚠注意

スプールは次のような場合，直ちに交換して下さい。

1）救命衣を膨脹させた場合。
2）購入後，３年を経過した場合。
（１年間での交換を推奨します。）
（使用頻度，保管条件により３年以内でも劣化が始まることがありますので，１年毎の交換を推奨します。）

⚠危険

サービスステーションまたは当社で行う点検，修理あるいは部品交換以外には膨脹装置を取り外さないで下さい。炭酸ガスが漏れて気室が膨脹しない危険性があります。

以　上

別紙 1

１年間に１回，販売店を通じてサービスステーションまたは当社での下記項目の定期点検を実施して下さい。

定 期 点 検 項 目

No	検査部位	項目	検査方法	基　準	確認
1	ウエスト ポーチ 腰ベルト	外観	目視	救命衣本体に縫糸切れ，ほころび等の摩損，穴等の損傷がないこと。	
2		外観 機能	目視 手動点検	腰ベルトに損傷等がなく，長さの調整ができること。	
3		外観 機能	目視 手動点検	バックルに損傷等がなく，開閉や作動に異常がないこと。	
4	気　室 補助送気装置	外観	目視	気室に損傷及び擦れ等による摩損，穴等の損傷がないこと。	
5		溶着	目視	気室溶着部に剥がれがないこと。	
6		外観	目視	気室が油脂等により汚損されていないこと。	
7		外観	目視	補助送気装置（チューブ，バルブ，キャップ）に損傷及び変形等の異常がないこと。	
8		機能	手動点検	補助送気装置の作動に異常がないこと。	
9		外観	目視	補助送気装置と気室の溶着部に剥離等の異常がないこと。	
10	膨脹装置 ボンベ パッキン	外観	目視	膨脹装置に損傷，変形等がないこと。	
11		外観	目視	撃針の先端にまくれ，へたりがないこと。	
12		外観	目視	スプールに異常がないこと。（溶解していないか確認する。）	
13		外観	目視	炭酸ガスボンベの封板に撃針による刺し傷がないこと。	
14		外観	目視	炭酸ガスボンベと接触するパッキンに損傷及びへたりがないこと。	
15		外観	目視	膨脹装置取付用のパッキン上，下の損傷及びへたりがないこと。	
16		外観	目視	作動索及び引き手にほころび等の摩損がないこと。	
17		機能	手動点検	膨脹装置の作動索（手動用）を引くことにより撃針が円滑に作動すること。	
18		機能	手動点検	焼付金具に挿入されているムシの作動に異常のないこと。	
19	気　密	性能	別紙２ による	別紙 2 による。	
20	本　体	外観	目視	全ての部品が取り付けられていること。	
21	収　納	外観	目視	取扱説明書通り折りたたまれていること。	

別紙 2

気密性能は，販売店を通じてサービスステーションまたは当社にて，下記の気密試験を実施することにより確認して下さい。

気 密 試 験 （ 漏 洩 試 験 ）要 領

手順１　補助送気装置の内径に合うホースを準備します。

手順２　チューブ先端の補助送気装置に空気を注入するホースを差し込み、内部のバルブが押し下げられた状態にして，空気が漏れないようにとめて下さい。

手順３　ホースを差し込んだ後，気室内圧が 13.3ｋＰａ（100mmＨｇ）になるまで空気を注入します。

手順４　この時点でホース接続部分から空気漏れがないか，確認して下さい。
漏れ確認の簡易的な方法として，水の中にホース接合部を入れるなどの漏れ確認を行って下さい。

手順５　内圧を安定させるため，30 分間放置して，再度 13.3ｋＰａ（100mmＨｇ）であることを確認して下さい。その際，内圧が 13.3ｋＰａ（100mmＨｇ）に達していない場合は空気を補充し調整して下さい。
その後，さらに１時間放置し，内圧が 12.7ｋＰａ（95mmＨｇ）以上に保たれていることを確認します。

・内圧が 12.7ｋＰａ（95mmＨｇ）未満であった場合は，ホース接合部から漏れていないか，再度確認して下さい。
・ホース接合部から漏れがある場合は，接合部を再度しっかりと取り付け，手順３，４で試験を実施し，漏れの確認をして下さい。
・ホース接合部から漏れがない場合は，救命衣本体から空気が漏れているため，使用することはできません。

手順６　気密試験後，ホースを取り外し，気室内の空気を完全に排気します。

⚠危険

気密試験後，内圧が１２．７ｋＰａ（９５mmＨｇ）未満であった場合は使用できません。販売店を通じてご連絡を差し上げますので，サービスステーションまたは当社で修理あるいは部品交換を受けて下さい。

以　上